

令和3年度に実施する主な事業

1 多様なつながりで共に助け合い、認め合う 安全安心に暮らせるまち NAHA

小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり
小禄支所建設整備事業……………2億8,245万円
地域の力が重なる安全安心のまちづくり
避難所標識整備事業……………3,429万円

2 互いの幸せを地域と福祉で支え合い 誰もが輝くまち NAHA

地域で暮らし地域で支えるまちづくり
子供の貧困緊急対策事業……………1億5,924万円
日常生活用具給付等事業(紙おむつ療育手帳重度分)……………1,002万円
すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり
不妊に悩む方への特定治療支援事業……………8,357万円
不育症検査費用助成事業……………641万円
身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり
那覇市立病院建替え事業(病院事業債貸付金)……………9億2,860万円
衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり
新型コロナウイルスワクチン接種事業……………13億5,494万円

3 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る 誇りあるまち NAHA

子育てが楽しくなるまちづくり
待機児童解消等加速化事業……………4,800万円
保育士確保対策事業(離職抑制分)……………1億1,654万円
保育所等PCR検査事業……………1億4,119万円
自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり
スクール・サポート・スタッフ配置事業……………1億611万円
学校ICT支援員配置事業……………3,960万円
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を
創造するまちづくり
新文化芸術発信拠点施設整備事業……………39億9,415万円

4 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、 ひろがる万国津梁のまち NAHA

様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり
那覇市コロナ対策事業刷新支援事業……………1,500万円
オープンデータ利活用推進事業……………137万円
中心市街地を活かしたまちづくり
沖縄の食の魅力発信拠点整備事業……………28億5,520万円

5 自然環境と都市機能が調和した 住みつけたいまち NAHA

暮らしてよし歩いて楽しい快適なまちづくり
沖縄都市モノレールインフラ外整備事業……………14億714万円
自動二輪車等駐車場整備事業……………541万円

6 市民との信頼を深め、効率的で効果的な 行財政運営を行う

市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり
デジタル化推進事業……………882万円
効率的で効果的な行財政運営を行う
市制100周年記念企画事業……………1億10万円
SDGs推進事業……………108万円

協働

豊かに紡ぐ協働の絆

市政運営の礎としてきた「協働によるまちづくり」。20年余に渡り、市民の皆様とともに、その裾野を点から線に、線から面に広げる取組を進めてまいりました。

コロナ禍の厳しい状況においても、多くの市民や団体の皆様が、ボランティアによる支援の行動を起こしていることに、改めて那覇に根付いた「協働の力」を感じております。

近年、身体的・精神的・社会的にも満たされた状態を表す「ウェルビーイング(Well-being)」という概念が注目されています。物質的な豊かさだけでなく、心の豊かさが重要視される今の時代に求められている大切な概念であると感じております。

「協働によるまちづくり」の本質は、人とのつながりや地域の絆を感じることで喜びを見出し、自発的な活動により自らの役割と意義を認識する中で、心の豊かさを満たすことにあるのではないのでしょうか。そのプロセスは、まさにウェルビーイングを高めるものであり、今後の市政運営にあたって、強く留意してまいります。

生活や地域を取り巻く環境は大きく変わりました。この変化を「協働によるまちづくり」を深化させていく契機と捉え、多様な活動主体の皆様とともに、協働の絆を太く紡いでまいります。その絆は幾重にも重なって立体となり、どんな困難をも包み込む温かい力になるでしょう。

物理的な距離が求められる今、心の距離はしっかりと縮め、「協働によるまちづくり」に邁進してまいります。

行政の効率化

危機を捉え、新機軸を拓く

新型コロナウイルスによる危機は、社会全体のデジタル化の流れを一気に加速させました。

国はデジタル・ガバメントの構築を最優先の政策課題として位置付け、デジタル庁の創設など様々な動きをみせています。

また、民間の他、様々な自治体において、テレワークやオンライン会議など働き方の変革が急速に進んでいます。

本市では、行政手続きのオンライン化や、AI・RPAなどのデジタル技術の導入・運用により、市民サービスの向上に努めてまいりました。そして今、市民の行動や意識、価値観が変わるなかで、行政においてもデジタルトランスフォーメーション(DX)による組織文化の刷新や業務の効率化、さらなる市民サービスの向上などが求められていると認識しております。

環境への変化にスピード感をもって対応していくため、新たに「デジタル化推進室」を設置するとともに、庁内横断的なプロジェクトチームで、各行政分野の様々な場面において、デジタルの優位性と利便性を実感できる施策を広げてまいります。

コロナ禍のピンチをチャンスと捉え、ニューノーマルの時代に、より良い市民サービスを提示できる市役所に進化できるよう、全庁一丸となってデジタル化を推し進めてまいります。



地域活性化

賑わいを未来へつなぐ

未来を見据えて蒔いた賑わいの種が、着実に成長し、芽吹きの時を迎えています。

いよいよ秋には、「那覇文化芸術劇場なはーと」が開館し、その後程なく第一牧志公設市場も完成します。国際通りを挟み東西に位置する両施設は、まちづくりの拠点として、中心市街地全体に大きな賑わいをもたらすものと確信しております。

また、那覇の賑わいを一層豊かなものにするには、市民・県民の心の拠り所である「首里城」の復興が不可欠です。その復興に向けた取組も前進しており、風格ある歴史的環境を創出する首里のまちづくりにも、国、県とも連携を図りながら取り組んでまいります。

そして、本市のみならず県全体の振興を考えると重要なのが、那覇軍港の着実な跡地利用です。返還合意から47年が経過する中、事態も動き出しております。力を尽くしてこられた全ての方々をしっかりと受け止め、今後も地権者の皆様と協働による取組を進めてまいります。

さて、令和3年度末には現沖縄振興計画の期限を迎えます。初めて県民が主体となって策定し、本県の振興に大きく寄与してきた同計画の必要性はまだ強く求められています。東アジアの中心に位置する本県は、地理的優位性から日本経済再生のけん引役として期待されており、県都である本市の活性化は、県全体の発展に直結し、ひいては日本全体に光明をもたらすものと捉えています。フロントランナーとしての役割を自覚し、次期振興計画の策定に向けた取り組みを、県を中心に全市町村が一丸となって進めてまいります。

「賑わいを未来へつなぐ」これが私の使命であり、賑わいの種が、市内各所に芽吹き、咲き誇る花々となるよう、市政運営に邁進していく決意です。



那覇文化芸術劇場なはーと

結び

《立ち向かう姿勢 次世代に》

競泳女子の池江璃花子選手が、大病を乗り越えレース復帰を果たしました。

「乗り越えられない壁はない」と述べ、前向きに立ち向かっていく姿勢に心を打たれました。再び舞台上に戻ってきた池江選手の強い精神力と、並々ならぬ努力は、多くの人々に勇気と感動を与えています。

私は、あらゆる困難に立ち向かっていく姿勢を、次代を担う若者たちに見せていくことが大切であると考えております。その姿勢は想

いとして引き継がれ、未来を切り拓く大きな力になると信じています。私たちは今、大きな試練の渦中にあります。一つ一つ乗り越えていく気概をもって、市政運営に臨む所存であります。

市民の皆様並びに議員各位のご理解、ご協力をより多くお願い申し上げます。令和3年度施政方針の結びの言葉といたします。

令和3年2月9日

那覇市長 城間幹子